

開湯150年を祝い、過去最高の入り込み

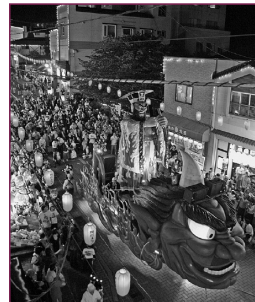
～第45回登別地獄まつり～

8月30日(土)、31日(日)の2日間、登別温泉街で『第45回登別地獄まつり』(市・登別観光協会主催)が開かれ、まつり期間が2日間になって、最多の記録を更新する約4万2,500人が参加し、温泉街は熱気に包まれていました。

オープニングでは、小笠原市長が開会を宣言。テープカットが行われ、湯鬼神が開湯150年記念の横断幕を掲げ、登別小学校のオニッコマーチングバンドによる極楽通りの行進により始まりました。

昼の部では、射的や輪投げなどのオニッコ縁日、足湯などが行われたほか、31日には恒例となっている南蛮がたっぷり入った『地獄ラーメン』早食い競争が行われ、男女20人が参加。制限時間内の完食とタイムにチャレンジし、あまりの辛さに参加者も見物客も苦悶の表情をしていました。

夜の部では、市民や観光客が一緒になって参加する『鬼踊り大群舞』や、重さ1トにもなるみこしを担ぎまちを練り歩く『鬼みこし暴れねりこみ』、立ち上がると6分にもなる迫力ある『閻魔大王からくり山車運行』、ファイナルの花火大会などが行われ、今年も大いににぎわいました。



▲閻魔大王からくり山車運行



▲地獄ラーメン早食い競争

ふるさとの発展を祈って



～東京げんきかい設立20周年記念 『ふるさと登別訪問ツアー』～

8月22日(金)から24日(日)までの3日間、東京登別げんきかいによる『ふるさと登別訪問ツアー』が行われました。

『東京登別げんきかい』は、首都圏などに在住する登別出身者などで構成され、交流や情報交換を行いながら登別の発展に寄与することを目的に設立。このたびの訪問ツアーは、今年で20周年を迎えることを記念して行われました。

会員は、それぞれ鬼花火や海鮮朝市、ふおれすと鉱山を見学したり、登別ゲートウェイセンターの事業に参加したりしながら、ふるさとを懐かしみ、24日には、市民会館で設立20周年を記念して、シダレザクラの植樹を行い、会の発展を誓い合いました。

明日へパス、未来へキック！！

～横浜F・マリノス少年サッカー教室～

9月13日(土)、幌別小学校グラウンドで『横浜F・マリノスサッカー教室』(鬼たまスポーツクラブ主催)が開催され、90人の子どもたちが参加しました。

この教室は、サッカーを通してスポーツの楽しみや青少年の健全育成、地域のスポーツ振興を図るため、望月選さん(横浜F・マリノス育成普及本部アカデミーグループ部長)を招き開催。幼稚園(4～6歳)、小学1年～3年生、小学4年～6年生を対象とした3回に分けてプロの手ほどきを受けました。

幼稚園の部では、ボールを使った体操や遊びでボールに慣れることから始め、ドリブル、キックと次第にサッカーらしいメニューへと移り、ミニゲームが終わるころには、力強いシュートや華麗なドリブルを披露していました。

